

◎宮本 次郎 代議員 (一関一)

6年前、東日本大震災当時勤めていた学校で、原子力発電所の事故なんて誰もまだ騒いでいない時期に、学校にあった放射線計で空中の放射線量を測定したら、数値は異状に高かった。グラウンドの土の線量の値も高く、職員会議で、グラウンドで部活動をしている生徒に「家に入る前に土を落として、服もすぐに洗濯するように指導できないか」という質問をした。校長は「地域に不安を広げる。決してそういうことはするな」という指示であった。その後、授業で原子力発電について学ぶときには、不用意な発言をしたら怖いからそこはとぼしてしまったという職員室での会話があったり、放射能汚染の事実が広まって各地で学習会が開かれるようになって、そのポスターが目につかないようになっていたりしていった。みんな誰かに配慮して自粛していった。



その後、授業で原子力発電について学ぶときには、不用意な発言をしたら怖いからそこはとぼしてしまったという職員室での会話があったり、放射能汚染の事実が広まって各地で学習会が開かれるようになって、そのポスターが目につかないようになっていたりしていった。みんな誰かに配慮して自粛していった。

今壇上には「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンが掲げられているけれども、戦時中の先輩教員が、教え子を戦場に送りたくて送っていたわけではなく、その時代全体が、そのようにふるまわなくてはならない雰囲気でもたされていたのだと、その時思った。正しいことを言えない・実行できない、そういう雰囲気の中で、私たちは何気なく、時代の流れの片棒を担いでいるのだと思った。

6年経って今はどうだろうか。自衛隊がアメリカの空母を護衛している。自衛隊が海外に行くという法案審議のときには、そんな想定なんて誰も言わなかった。北朝鮮から見れば、日本はアメリカと一緒に武力で威嚇をしていると思って当然であろう。こんな憲法違反をしてしまうことになるうとは。

学習指導要領は、日本が世界で勝ち抜くためにこういう人材が欲しいという学力観を生徒に要求している。これまで、教育の目標は「人格の完成」であったはずであり、「人材の育成」を掲げることはなかった。指導要領は指導する内容の大綱を定めたものであったのに、いつの間にか指導方法まで指定するようになっていく。生徒たちみんなで話し合ったり、みんなの前で発表する能力を求められているけれど、そういうことが不得意な生徒は、私たちの目の前にいっぱいいる。できないという子にだって、別の能力を発揮するのだってよいのじゃなかったのか。

私たちは、目の前の子どもの現実を踏まえて、「そんなのおかしい！」という声を上げていかなければならないのではないのでしょうか。

